



熊本市 感染症発生動向調査 速報

厚生労働省ホームページ
QRコード
「蚊媒介感染症」



●地球温暖化と蚊媒介感染症

近年地球温暖化は進み続け、異常気象など温暖化による影響を実感するようになってきました。温暖化により、様々な支障が出てきていますが、温暖化による気温や降水の変化が、感染の条件に影響する心配があり、「危機」の1つに、蚊が媒介する感染症のまん延が懸念されています。

蚊が媒介する感染症には**ウエストナイル熱、黄熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、デング熱、日本脳炎、マラリア**などがあり、昨年熊本県内で3件の報告があった「日本脳炎」はコガタアカイエカ、2014年に日本で大流行した「デング熱」はヒトスジシマカが媒介すると言われています。

ヒトスジシマカは日本で最も一般的に見られる蚊の一種で、卵で越冬し、3~4月に雨水が溜まったところで孵化(ふか)して水中で成長します。幼虫の生息域は「平均気温11℃以上の場所」、活発に活動するのは「気温25~30℃の時季」とされています。現在の生息域は北海道を除く全域ですが、今から約53年~72年後の北日本では秋(9~11月)の気温が5℃前後上昇するという予測もあり、この予測通りに地球温暖化が進めば、近い将来には少なくとも道南・道央まで、場合によっては北海道全域、つまり日本全域がヒトスジシマカの生息域に含まれてしまいます。

地球温暖化による蚊の活動長期化・生息域拡大は着実に進行しています。

「ウエストナイル熱」は、アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、西アジア、米国(アラスカ、ハワイ州を除く)とカナダ南部などの広い地域に発生が見られます。日本では2005年米国からの帰国者に初の輸入感染例が確認されました。日本ではまだ感染が広がっていませんが、蚊の活動が長期化し、渡り鳥の飛来する時期と重複すると、日本で感染が拡大するという懸念もあります。

黄熱、日本脳炎には予防接種、マラリアには予防薬がありますが、その他の蚊媒介感染症には予防接種や予防薬はありません。そのため蚊に刺されないようにする事が予防として重要であり、これ以上地球温暖化が進まないように私たちにできることを考え、行動に移すことが大切です。



環境省QRコード
「地球温暖化と感染症」



環境省ホームページQRコード
「地球温暖化が進むと秋も蚊が活発になる! 懸念される感染症の脅威とは」



期 間		2023年 16週		2023年 17週		2023年 18週	
		4/17~4/23		4/24~4/30		5/1~5/7(最新)	
疾患名	17・18週 疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	↑	40	1.67	35	1.40	42	1.68
RSウイルス感染症	↑	9	0.60	2	0.13	5	0.31
咽頭結膜熱(プール熱)	↑	4	0.27	1	0.06	4	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	10	0.67	6	0.38	3	0.19
感染性胃腸炎	↓	51	3.40	82	5.13	57	3.56
水痘(みずぼうそう)	→	3	0.20	0	0.00	1	0.06
手足口病	→	0	0.00	0	0.00	1	0.06
伝染性紅斑(りんご病)	→	0	0.00	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	↓	4	0.27	16	1.00	6	0.38
ヘルパンギーナ	↓	32	2.13	40	2.50	21	1.31
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	0	0.00	0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎	→	0	0.00	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	↓	6	1.20	4	0.80	2	0.40
細菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	→	0	0.00	1	0.20	1	0.20
マイコプラズマ肺炎	→	0	0.00	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	→	0	0.00	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	0	0.00	0	0.00	0	0.00